

映画『フリーダム・ライターズ』に見られる平叙疑問文

原 田 知 子

1 はじめに

英語の会話では、平叙文の語順のまま文末のイントネーションを上げて発音する平叙疑問文（declarative question）が見られる。Quirk et al. (1985: 803–804) は、文法の面から文のタイプを平叙文、疑問文、命令文、感嘆文の4つに分けた上で、文のタイプと意味が合わないものの例として平叙疑問文、修辭疑問文、命令を表す平叙文、感嘆を表す疑問文の4つを挙げている。そして平叙疑問文を “it is syntactically declarative but semantically a question”（統語的には平叙文だが意味的には疑問文である）と定義している。

ただし、あらゆる平叙文をどんな状況でも平叙疑問文として使用できるわけではない。疑問文を発話することが難しい英語の初学者が、“You are from America?” や “You speak Japanese?” のように平叙文を上げ調子で発音して質問する現象が見られるが、適切と言えない場合も多い。本論文では、平叙疑問文の機能と用法について、先行研究を踏まえ、アメリカ映画『フリーダム・ライターズ』（*Freedom Writers*, 2006）のセリフに見られる実例を分析する。なお本論文は、映画英語教育学会（ATEM）東日本支部大会における筆者の口頭発表に基づく¹⁾。

会話の分析では文脈を考慮に入れることが不可欠で、その点では映画の会話は至便である。藤枝（2013: 3）が「映画は、発話のコンテキストを文字通り目に見える形で示してくれる貴重な言語資料である」と述べている通り、話者の性格、人物関係、心理状態も含めた場の状況がわかる上、イントネーションや強勢などの言語要素に、表情やジェスチャーなどの非言語要素も合わせて観察できる。脚本家によって作り出された会話ではあるが、英語の母語話者である観客に違和感のないものであるため、現実の会話に準ずるデータとして会話分析の対象とする。

1) 口頭発表「会話における平叙疑問文の機能 — 『フリーダム・ライターズ』の実例に基づく考察 —」（映画英語教育学会東日本支部大会）2015年11月。

2 先行研究の概観

Quirk et al. (1985: 814) は、平叙疑問文について以下のように解説している。

The declarative question is a type of question which is identical in form to a declarative, except for the final rising intonation. It is rather casual in tone. Declarative questions are conductive, and resemble tag questions with a rising tone in that they invite the hearer's verification.

形は平叙文の語順で文末は上昇調で発音され、くだけた口調である。conductive とは Quirk et al. (1985: 808) が “they may indicate that the speaker is predisposed to the kind of answer he has wanted or expected” と説明しているように、質問者がすでに答を予想し、相手に確認しようとしていることを指す。この点で平叙疑問文は付加疑問文の機能に近い。ゆえに、予備知識や予想がなく純粹に情報を得ようとしている場合には、平叙疑問文を用いるのは適切ではない。

Gunlogson (2002: 124) は、“declarative questions cannot be used ‘out of blue’” (平叙疑問文を唐突に使うことはできない) と述べ、次の例を挙げている。同僚が果物を食べているとき、最初の発言としてふさわしいのは (1a) の疑問文で、(1b) の平叙疑問文や (1c) の平叙文を文脈なしに使うのは不自然である。

- (1) a. Is that a persimmon?
- b. That's a persimmon?
- c. That's a persimmon.

Swan (1995: 462) は、確認の用法に加えて、驚きを表現する用法を指摘している。

- (2) That's the boss? I thought he was the cleaner.

「あれが上司だって？」という話者の驚き、意外さなどの強い感情が込められている表現で、Is that the boss? という疑問文とは働きが異なる。

肯定の答を予想している場合は some などの断定形 (assertive form) が、否定の答を予想している場合は any などの非断定形 (nonassertive form) が現れる (Quirk et al. 1985: 814)。

- (3) He wants something to eat?
- (4) You didn't get anything to eat?

平叙疑問文の後に評言節 (comment clause) がつけ加えられることもあり、この場合のイントネーションは下降調となる (Quirk et al. 1985: 814)。

- (5) a. You realize what the risks are, I gather.
- b. You realize what the risks are, I hope.
- c. You realize what the risks are, I trust.

平叙疑問文になるのは Yes-No 疑問文だが、例外的に、疑問詞を伴う平叙疑問文がある。疑問詞が、文頭ではなく、それが問う項目の本来の位置に現れるのが特徴である (Quirk et al. 1980: 817)。

(6) A: So you boarded the train *where*? B: At Los Angeles.

(7) A: And you get off *at what station*? B: At San Diego.

鈴木 (2010: 452) は、常に平叙疑問文となる例を挙げている。

(8) a. I beg your pardon? (恐れ入りますがもう一度おっしゃってください)

b. *Do I beg your pardon?

Yes/No の返事を期待している質問ではないので、(8a) の形が用いられ、(8b) の疑問文は見られない。なお、映画『フリーダム・ライターズ』では次の平叙疑問文が見られる。

(9) You know what? (Chapter 4)

(10) You know something? (Chapter 5)

(11) So that's it? (Chapter 15)

(9) (10) はこれから話をしようとする際に相手の注意を引く慣用表現で、常に平叙疑問文となる。Yes. や No. の答を求めているわけではなく、“Do you know what?” や “Do you know something?” は不自然である。(11) は慣用表現 “That's it.” 由来で、「これで終わりね」と確認するものであり、“Is that it?” は不自然に響く。ここには文頭に “So” がついているが、鈴木 (2010: 447) は平叙疑問文の文頭や文尾に来る so や then は『『それなら〜』と推論を示す連結語』なので、「確認の機能を持つ平叙疑問文と相性がよい」と説明している。

3 実例の考察

この項では、映画『フリーダム・ライターズ』の中の実例を、シーンごとに詳しく見ていく。この映画はアメリカの高校での実話が元になっている。人種差別、ティーンエイジャーのギャンググループの抗争、銃や麻薬の濫用など問題が山積する荒れた高校に赴任した新人の白人教師 Erin が、状況に絶望せず、読むこと、書くことを生徒たちに根気よく教えていく。生徒たちは戦争の歴史を学び、自分の状況を書き表すことを通じて暴力以外の方法で自分を表現できるようになり、次第に知的に成長し、自尊心を培っていく。この映画を授業で扱った際、教室のシーンでの教師と生徒のやりとりの中に多く出てくる平叙疑問文に興味を惹かれ、研究テーマに選んだ。平叙疑問文は映画全部で 55 例あり、ひとつのシーンに複数の平叙疑問文が出てくる箇所を考察したところ、教師と生徒のやりとりだけでなく、親子や夫婦の会話、教員同士の会話、法廷での会話など、さまざまなシーンで使われていることがわかった。

3.1 父と娘夫婦の会話

娘 Erin が荒れた高校に勤め始めたことを、父 Steve は心配している。娘夫婦とレストランで食事しながら会話するが、不興を隠せない。若い頃に公民権運動に関わっていた父なら理解してくれるはずと Erin は期待しているが、会話は噛み合わない。

Chapter 3

STEVE: With your brains, you could run a major corporation. Instead, I worry all night because you're a teacher at Attica²⁾.

ERIN: Can you hear what you're saying? How many times have I listened to you about walking civil rights marches?

STEVE: These gangs are criminals, not activists. (12)You read the papers?

ERIN: They said the same thing about the Black Panthers³⁾.

STEVE: I'll lay odds your kids don't even know who Rap Brown or Eldridge Cleaver were. You're gonna waste your talents on people who don't give a damn about education. It breaks my heart. I tell you the truth.

ERIN: Well... I'm sorry. I can't help that.

STEVE: (13)You think this is good enough for her?

SCOTT: Yeah, I do. Look, Steve, if Erin thinks she can teach these kids, she can. You telling her she can't is just gonna make her mad.

(12) 娘 Erin に「(事件のニュースの載った) 新聞を読んだだろう」と確認している。当然、読んだものと想定し、Yes の答を期待している。

(13) 娘の夫 Scott に、この仕事は彼女にとってよいものと思っているのか、確認している。もしこれが Do you think this is good enough for her? であれば中立的な疑問文だが、平叙疑問文の使用から、「きっとそう思っているのだろうね」という気持ちが伺える。

3.2 教室での会話

黒人生徒 Jamal の特徴を誇張して描いた似顔絵が授業中に教室で回覧され、教師の Erin が発見して憤るシーンである。

2) ニューヨーク州にある「アッティカ刑務所」のことで、1971 年に囚人の暴動が起きたことで知られる。父 Steve は娘の勤務している高校を刑務所に喩えている。

3) 1960 年代後半から 1970 年代に、アメリカで黒人解放運動をした急進的な組織。次の Steve のセリフに出てくる人名は、黒人解放運動の活動家たちである。

Chapter 5

ERIN: What's going on? What is that? Give it to me. What is this?

JAMAL: Just leave it alone.

ERIN: (14)You think this is funny? Tito? Would this be funny if it were a picture of you?

TITO: It ain't.

ERIN: Close the workbooks. Maybe we should talk about art. (15)Tito's got real talent, don't you think?

STUDENTS: Yeah, yeah. Go, Tito.

ERIN: (16)You know something? I saw a picture just like this once in a museum. Only it wasn't a black man, it was a Jewish man. And instead of the big lips, he had a really big nose, like a rat's nose. But he wasn't just one particular Jewish man. This was a drawing of all Jews. And these drawings were put in the newspapers by the most famous gang in history.

STUDENT: That's us, dawg.

ERIN: (17)You think you know all about gangs? You're amateurs. This gang would put you all to shame. And they started out poor and angry, and everybody looked down on them until one man decided to give them some pride, an identity and somebody to blame. (18)You take over neighborhoods? That's nothing compared to them. They took over countries. (19)And you wanna know how? They just wiped out everybody else.

(14) (17) (18) (19) このシーンでの Erin は、黒人の特徴を誇張した似顔絵の酷さに怒っており、強い感情を込めて語っている。前項で述べた、驚きや意外さを表す用法である。

(15) 確認の気持ちが込められている。典型的な平叙疑問文ではないが、付加疑問文とも異なる。
don't you think は前項で見た評言節の一種と考えてよいだろう。

(16) 前項で触れた、常に平叙疑問文になる例で、生徒たちが聴いていることを確認しながら話を進めている。

3.3 夫婦の会話

Erin は仕事に夢中で、常に生徒のことばかり考え、生徒たちが読む本を自腹で揃えるために複数のアルバイトまでするようになる。夫 Scott はそれが不満で、彼の発言には苛立ちが込められている。以下の (20) (21) は、夫が強い感情を表している平叙疑問文である。

Chapter 8

SCOTT: (20)You're a concierge at the Marriott?

ERIN: It's just weekends. You play tennis with Evan on Saturdays. And you can play golf with my dad on Sundays.

SCOTT: (21)Oh, you want me to play golf?

ERIN: And the bonus is I get employee rates on Marriott hotel rooms all over the world.

SCOTT: I've heard a lot of hyphenates, but a bra-selling-English-teacher-hotel-concierge has gotta be a new one. You told me your part-time job was temporary.

ERIN: It is. I just don't know for how long.

SCOTT: What if I said no?

ERIN: No, what?

SCOTT: No, I don't want you working three jobs.

ERIN: But I can make it work, Scott.

SCOTT: No, that's not the point. You can do anything! We know that already. It's just that I... You... You didn't even ask me.

ERIN: I'm just trying to do my job, Scott.

SCOTT: By getting two more jobs? I don't understand, Erin.

3.4 教員同士の会話

ベテラン教員 Margaret は、自分が長年実践してきた教育方法を否定するような新人 Erin の行動が許せず、生徒に新しい本を買うことにも校外学習に連れていくことにも反対する。Erin に対する話し方は常に高飛車である。以下の (22) も確認ではあるものの、「よくまあ」と吐き捨てるような強い感情を込めている。

Chapter 8

MARGARET: Principal Banning received a call from Dr. Cohn at the school board. (22)Apparently you're taking your students on a trip?

ERIN: Yes, but it's over the weekend, so it won't affect any test schedules. I know how busy you are, and since I'm paying for it myself, I didn't want to bother you.

3.5 生徒との会話、教室での会話

以下の会話の最初の部分では、黒人生徒 Marcus がクラスメートの Eva に向かい、Anne Frank（アンネ・フランク）を匿った女性、Miep Gies（ミープ・ヒース）のすばらしさを力説している。後半は教室のシーンで、Miep Gies に手紙を出すアイデアにクラスが盛り上がる。

Chapter 11

MARCUS: How many have you read a book about? Have you seen them on TV or even in the newspaper? That's why this story's dope. She was our age, man. Anne Frank understands our situation, my

situation. And that Miep Gies lady, the one that helped hide them? I like her. I got all these other books about her from the library. Wow.

ERIN: (23)You used your library card?

MARCUS: No.

(教室にて)

ERIN: Okay, listen up. Marcus has given me an idea. Instead of doing a book report on *The Diary of Anne Frank*, for our assignment I want you to write a letter to Miep Gies, the woman who helped shelter the Franks. She's still alive and she lives in Europe. In the letter, I want you to tell her how you feel about the book. Tell her about your own experiences. Tell her anything you like. But I want the letters to be perfect, so be prepared to do more than one draft, okay?

MARCUS: Is she gonna read the letters?

ERIN: Well, right now it's a writing assignment. I'll read them.

TITO: We should get her to read them.

BEN: (24)Yeah, you can do that, right, Ms. G?

(23) 図書館の本を読んだという生徒 Marcus に向かって、Yes. の答を想定して「図書館のカードを使ったのね」と Erin が尋ねたが、返事は No. であった。Marcus はバツが悪そうな表情をしており、映画には描かれていないが、無断で借り出したものと思われる。

(24) 付加詞 right を伴う例である。『フリーダム・ライターズ』に出てくる 55 例中、right? を伴う例は 4 例あり、付加疑問文と同じ、確認、念押しの機能が伺える。

3.6 法廷での会話

鈴木 (2010: 445) は、法廷での平叙疑問文の用法を次のように述べている。

法廷で検事や弁護士が被告人質問で確認する場合や探偵が質問する場合に、平叙疑問文が使われることがある。被告人に質問すると言っても、普通、検事は事件の内容について既に知っているので、被告人から供述を引き出すため、確認の平叙疑問文が使われるのである。

『フリーダム・ライターズ』に法廷のシーンがある。スーパーマーケットで銃による殺人が起こり、黒人生徒 Grant Rice が逮捕されるが、真犯人はラテン系の生徒 Paco である。事実を知っている女子生徒 Eva は、同胞で自分の恋人である Paco を庇って最初は偽証したが、気が咎めている。

Chapter 13

(証言前夜)

EVA'S MOTHER: (25)You hungry? (26)You know what you're gonna say in that courtroom?

EVA: I know what I have to say.

EVA'S MOTHER: Yeah.

EVA: (27)You know how that is?

EVA'S MOTHER: I know. And that man that put your father in prison, he knew he was sending an innocent man. But, you know, he was just protecting his own.

EVA: What the hell does everybody want from me?

(法廷にて)

DEFENSE ATTORNEY: And what time was that?

EVA: I told you, 9:00, 9:30.

DEFENSE ATTORNEY: (28)And you had a clear view of the defendant, Grant Rice, in the store?

EVA: I told you he was playing the video game.

DEFENSE ATTORNEY: Then what happened? What did you see?

EVA: Well, he got all whacked because he lost the game, and then he started shouting and all, threatening everybody.

DEFENSE ATTORNEY: (29)But he threatened everyone? (30)He threatened you?

EVA: No. The guy who ran the store. He wanted his money back for the game.

DEFENSE ATTORNEY: And what did the storeowner do?

EVA: He shouted back. And they were fighting. Then he, the defendant, knocked something over and left the store.

DEFENSE ATTORNEY: And then what happened? What did you see?

EVA: I saw... I saw... Paco did it. Paco killed the guy.

(25) 冷蔵庫を開けた Eva に母が尋ねている。これは Are you hungry? の文頭の be 動詞が省略されたとも考えられるが、平叙疑問文として数えた。

(26) 母は Eva に真実を語ってほしいと思っており、語ってくれるはずという確認の気持ちで平叙疑問文を使っている。

(27) 同じラテン系である恋人の Paco を真犯人だと証言すれば、同胞を裏切ることになり、身の危険が生じる。難しい立場に立たされた Eva は苛つき、法廷で証言することがどのようなものかわかるでしょうと母に八つ当たりしている。

(28) (29) (30) 弁護士が証人に確認するときに使われる法廷での平叙疑問文の使用例で、弁護士は当然、答を知っており、それを引き出すための平叙疑問文である。

3.7 教室での会話

この教室での会話では、平叙疑問文と判断してよいか迷う例が出てくる。

Chapter 15

ERIN: (31)Anyone know where Andre's been?

MARCUS: I haven't seen him on the bus.

STUDENT: Yeah, I haven't talked to him either.

TITO: Ms. G? Are we gonna have this same room next year, again?

ERIN: I don't know. You're gonna be juniors next year.

BEN: What do you mean?

ERIN: Well, I teach freshman and sophomore years.

BRANDY: (32)You mean, we're not gonna be with you next year?

ERIN: Well, I... I don't teach juniors. I thought you guys understood that.

(31) 平叙疑問文なら *Anyone knows where Andre's been?* となるはずである。話者が教育程度の高い教師の Erin なので、3 人称単数現在形の -s を落とす非標準的な発話をしたとは考えにくい。Does anyone know where Andre's been? の Does が省略されたものであろう。本人が発音しているつもりでも相手に聞こえない、省略かどうかははっきりしない場合もあるが、映像で口を見ても音を聞いても、このシーンの Erin は明らかに Does を発音していない。会話では文頭の Does の省略はよく見られる。3.6 で見た (19) You hungry? は平叙疑問文として数えたが、この (25) は平叙疑問文の数に入れずにおく。

(32) 驚きを込めて確認する用法である。来年度は Erin に教えてもらえないことを初めて知り、愕然とした生徒の気持ちが伝わってくる。

4 鈴木 (2010) への補足

鈴木 (2010) は小説の会話を対象として平叙疑問文の特性を研究している。今回、鈴木の実験に
従って映画のデータを検証したところ、異なる結果が出た項目が2点あった。平叙疑問文の人称と、
Yes-No 疑問文と平叙疑問文の頻度である。

4.1 平叙疑問文の人称

鈴木 (2010: 449) は2つの小説に出てくる平叙疑問文の主語を調べ、2 人称が多いと指摘し、「平
叙疑問文は確認のために使われることが多い。確認は対話の相手にするものであるから、2 人称の

頻度が最も高くなるのは当然であろう」と説明している。

鈴木の調べた小説 2 例と、筆者による映画『フリーダム・ライターズ』のデータを比較したのが以下の表である。

| | | 1 人称 | 2 人称 | 3 人称 | 計 |
|---------------------------|-------------------|------------|------------|------------|-----|
| 小説 | NLF ⁴⁾ | 5 (8.4%) | 36 (61%) | 18 (30.5%) | 59 |
| | ACF ⁵⁾ | 7 (14.2%) | 26 (53%) | 16 (32.6%) | 49 |
| | 計 | 12 (11.1%) | 62 (57.4%) | 34 (31.5%) | 108 |
| 映画 <i>Freedom Writers</i> | | 3 (5.5%) | 41 (74.5%) | 11 (20.0%) | 55 |

映画では 2 人称がさらに突出して多く、小説を凌ぐ。

『フリーダム・ライターズ』に見られる 1 人称の平叙疑問文は次の 3 例である。

(33) ERIN: Dad, I don't know what to do with this. I'm not a social worker. I'm barely a teacher.

Thank you. These kids, they're 14, 15 years old, and if they make it through the day alive, that's good enough. And I'm supposed to teach them? (Chapter 7)

(34) VICTORIA: Teachers treat me like I'm some kind of Rosetta stone for African-Americans. What?

Black people learn how to read, and we all miraculously come to the same conclusion? (Chapter 10)

(35) MARGARET: I've been an educator for over 30 years. I have students that still remain in touch

with me. I know what it is to be loved by a classroom! You have no idea how many battles I've had fighting to be a better teacher, and now, what, suddenly I'm incapable of educating your students? You know, if they move on to our classes and they fail, it'll be because they weren't prepared! It'll be because you failed, not them! (Chapter 15)

いずれも形こそ自分への問いかけだが、機能は確認ではなく、「まさか!」「冗談じゃない!」という、驚き、意外さ、強い感情の表明である。(33) は、希望に燃えて赴任した Erin が生徒たちの現実を知って自信を喪失したときのセリフである。(34) は上級クラスに 1 人だけいる黒人生徒 Victoria が、教師から黒人の代表のように扱われて辟易している場面での独白である。(35) はベテラン教師の Margaret が Erin と比べられてプライドが傷つけられ、怒りを爆発させるシーンである。

Quirk et al. (1985: 896) は、“Want a drink?” のように、平叙疑問文で 2 人称の主語 You が省略される例を挙げている。ただしこれは、疑問文冒頭の Do you が省略された可能性もある。『フリーダム・ライターズ』では以下のような例が見られる。

(36) See what I mean? (Chapter 1)

4) NLF: Sheldon, Sidney. 1994. *Nothing Lasts Forever*.

5) ACF: Archer, Jeffrey. 1991. *As the Crow Flies*

(37) Think we don't know 2Pac⁶⁾? (Chapter 4)

(38) Want to help? (Chapter 7)

3 人称の平叙疑問文は、以下のような例がある。

(39) That's all you got? (Chapter 3)

(40) He was like Atticus Finch⁷⁾ to me when I was growing up, and now he's talking about salaries?
(Chapter 3)

(41) That's all you think this is? (Chapter 5)

(42) Yeah, but it's not like you have, right? (Chapter 11)

(43) Your life is too hard? (Chapter 14)

(40) は意外さの表明だが、他の例は直前に相手が言った内容の確認、念押しである。

4.2 平叙疑問文の頻度

鈴木 (2010: 451) は、3 つの小説に出てくる Yes-No 疑問文と平叙疑問文の頻度を調べた。ここでも、筆者による映画『フリーダム・ライターズ』のデータを加えて比較する。

| | | Yes-No 疑問文 | 平叙疑問文 | 計 |
|---------------------------|-------------------|-------------|------------|-----|
| 小説 | NLF | 177 (81.6%) | 40 (18.4%) | 217 |
| | ACF | 180 (92.8%) | 14 (7.2%) | 194 |
| | NPM ⁸⁾ | 75 (88.2%) | 10 (11.8%) | 85 |
| | 計 | 432 (87.1%) | 64 (12.9%) | 496 |
| 映画 <i>Freedom Writers</i> | | 48 (47.5%) | 53 (52.5%) | 101 |

小説の会話データでは平叙疑問文の割合は低く、鈴木は「平叙疑問文は、くだけた会話や既に知っていることを確認したりする場合に現れるというように、文脈がある程度限られている。これに対して、Yes-No 疑問文は、普通、単純な疑問から自由に問を発するので、使用頻度が高いのは当然のことと言えよう」と述べているが、映画では逆転し、平叙疑問文が Yes-No 疑問文より多い。この映画が教師を主人公にしたものであるため他の映画より頻度が高い可能性はあるが、一般に、小説の会話よりも映画のセリフのほうが現実に近いのではないだろうか。小説内の会話が作者による創作物であるのと同様、映画のセリフも脚本家による創作物であるが、俳優が実際に発話するもの

6) 2Pac (1971-1996) はアメリカ合衆国のヒップホップ歌手。Erin がこの高校に赴任したのは 1994 年で、2Pac は当時の生徒たちの憧れであった。

7) Atticus Finch は 1960 年に発表された Harper Lee の小説 *To Kill a Mockingbird* 『アラバマ物語』の主人公で、黒人容疑者の弁護をする弁護士である。この小説は 1962 年に映画化され、Atticus を Gregory Peck が演じた。

8) NPM: Archer, Jeffrey. 2003. *Not a Penny More, Not a Penny Less*.

である以上、役の俳優本人がセリフに不自然さを感じれば演技は困難である。また、俳優による発話を撮影中に監督以下スタッフがチェックしており、セリフに不自然な箇所があれば撮影中にシナリオを変更することもある。その意味では、小説の会話よりも自然で現実的な会話になるであろうと想像する。同様の理由で、舞台上で上演される戯曲のセリフは、小説よりも映画のセリフに近いかもしれない。

5 まとめ

以上のように、映画に現れる平叙疑問文の特徴を、先行研究を踏まえて検証してきた。主語の人称や Yes-No 疑問文との割合などに関して小説の会話データとは異なる結果が出て、映画をデータとして用いる有用性が示されたと思う。文の形式と意味が異なる例として、修辭疑問文 (rhetorical question) も興味深いので、次のテーマの候補としたい。

映画では、文脈を踏まえて、非言語要素も含めたコミュニケーションを観察できるので、言語分析の手がかりが多い。今後も映画をコーパスとして語法的、語用論的研究を進めていき、実際に使われる文法・語法の様相を、映画を通して授業で学生にも提示していければと思う。今回の平叙疑問文は高校までの履修内容ではないが、「はじめに」で述べた通り初学者が Yes-No 疑問文の代わりに濫用する現象が起きた場合、今回のような分析は効果的な説明となる。文法・語法の実例を映画の中で見れば、学生たちへの学習の動機づけになり、文法は決して無機質なルールではなく、人が自分の気持を伝えるために使うものだとして理解を深めてもらえるであろう。

■参考文献■

- ・ 小林敏彦 2015『口語英文法入門 改訂版』愛知：株式会社フォーイン。
- ・ 鈴木雅光 2010「平叙疑問文について」『東洋大学大学院紀要 47』443-454。
- ・ 藤枝善之 2013「英語の定冠詞再考—映画と辞書によるアプローチ」『映画英語教育学会西日本支部設立 10 周年記念論文集』映画英語教育学会西日本支部、3-16。
- ・ Gunlogson, Christine. 2002. "Declarative Questions". B. Jackson (ed.), *Proceedings of Semantic and Linguistic Theory XII*. 124-143, NY: CLC Publications.
- ・ Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and John Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- ・ Swan, Michael. 1995. *Practical English Usage*. London: Oxford University Press.

映画

- ・ 『フリーダム・ライターズ』(Freedom Writers) リチャード・ラグラベネーズ監督 2006 (DVD、パラマウント ジャパン株式会社、角川書店、2010)。

Declarative Questions in the Movie *Freedom Writers*

Tomoko HARADA

Declarative questions, though in declarative word order, are pronounced with a rising intonation and function as questions. The purpose of this paper is to examine previous studies on declarative questions and to analyze the examples found in the script of *Freedom Writers*.

Declarative questions are colloquial expressions with a casual tone. Their function is similar to that of tag questions in that the speaker wants to confirm an expected answer. Hence declarative questions are not appropriate when the speaker has no prior knowledge or expectation about the topic concerned. Declarative questions can also express surprise and unexpectedness. In some cases, a comment clause such as “I suppose” may be added at the end with a falling intonation. “I beg your pardon?” and “You know what?” are always declarative questions.

The analyzed movie *Freedom Writers* is based on a true story in a troubled high school in the U.S. Declarative questions often occur especially in interactions between the teacher and students in the classroom. In the movie script, 55 declarative questions are found. Some are used to confirm information; more are used to express strong emotions such as surprise, unexpectedness and disgust. There are four examples with an adjunct “right.” They are similar to tag questions confirming information. The typical use of declarative questions in a courtroom, described by Suzuki (2010: 445), can also be observed in this movie.

Suzuki (2010: 449) examines the subjects of declarative questions in two novels and concludes that the second person pronoun appears most frequently. In the movie data, the second person pronoun is even more dominant. There are cases where the subject “You” is omitted. In the case of declarative questions with a first person pronoun, the function is not confirmation but expression of strong emotion.

Suzuki (2010: 451) also suggests, based on data taken from three novels, that the frequency of declarative questions is much lower than ordinary Yes-No questions. To the contrary, declarative questions appear more often than Yes-No questions in my movie data. Conversation in movies seems to be more natural and realistic than dialogue in novels.

映画『フリーダム・ライターズ』に見られる平叙疑問文

原田知子

平叙疑問文は、平叙文の語順のままイントネーションを上げて発音され、疑問文として機能する。本論文では、平叙疑問文の機能と用法について、先行研究を踏まえ、映画のセリフに見られる事例を分析する。

平叙疑問文は、くだけた会話表現である。質問者がすでに答を予想し、相手に確認しようとしている点で、付加疑問文の機能に近い。ゆえに、予備知識や予想がなく純粹に情報を得ようとしている場合には、平叙疑問文は適切ではない。確認の用法に加えて、驚きや意外さなどを表現する用法もある。平叙疑問文の後に“I suppose”などの評言節 (comment clause) がつけ加えられることもあり、この場合のイントネーションは下降調となる。“I beg your pardon?” や “You know what?” などの文は、常に平叙疑問文となる。

分析した映画『フリーダム・ライターズ』はアメリカの荒れた高校の実話が元になっている。特に教室のシーンで教師と生徒のやりとりの中に平叙疑問文が出やすい。この映画で平叙疑問文は全体で55例見られる。確認の機能の他、驚き、意外さ、嫌悪など強い感情を込めて用いられるものも多い。付加詞 right を伴う例は4例あり、付加疑問文と同じ確認の機能が伺える。鈴木 (2010: 445) が指摘した、法廷での平叙疑問文の典型的な用法も確認できる。

鈴木 (2010: 449) は2つの小説に出てくる平叙疑問文の主語を調べ、2人称が多いことを指摘している。映画のデータでは2人称がさらに突出して多い。2人称の平叙疑問文では主語 You が省略されることもある。1人称の平叙疑問文の場合、機能は確認ではなく、強い感情の表明である。

鈴木 (2010: 451) は、3つの小説に出てくる Yes-No 疑問文と平叙疑問文の頻度を調べ、平叙疑問文の割合は低いと述べているが、映画では比率が逆転し、平叙疑問文がふつうの Yes-No 疑問文より多い。映画データのほうが小説のセリフよりも自然で、実際の会話の様相に近いと思われる。